釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和７年（2025年）９月16日発行　VOL 24

次期学習指導要領を想定する

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

音楽祭に向けた準備が佳境に入ってきました。先週は３学年の学力テスト（総合Ａ）があり、一時の休息がありましたが、放課後になると体育館と音楽室から生徒たちの歌声が聞こえてきます。以前から比べると、声量はもちろんですが気持ちの面でも変化が分かります。実際にそれぞれの会場を覗いてみると、３年生のリーダーシップの下、熱心に練習に取り組む姿が見られます。３年生の指揮者はパートリーダーは１回の練習が終わる度に気付いたことを１、２年生に伝えます。指揮者は合唱に臨む姿勢について、パートリーダーは技術面につてアドバイスを送ります。１、２年生はアドバイスを送る３年生を真っ直ぐに見て、うなずきながら聞き入っています。そんなことが毎日繰り返されています。自分たちで決めた目標を実現するために決して妥協しない生徒たちの姿は素晴らしいと思います。また、12日（金）には、音楽祭の舞台となる山台が体育館ステージ下に搬入されました。大きくて重たい山台を１階倉庫から体育館まで運ぶので相当にきつい作業のはずです。それでも仲間同士で笑顔を見せながら安全に気を付けて山台を運び、丁寧に体育館ステージ下に並べていました。このようなことが当たり前にできる生徒たち、本校の誇りです。音楽祭は19日（金）に開催されます。平日ではありますが、たくさんの保護者や地域の皆さんに御来校いただき生徒たちの姿を御覧になっていただきたいと思います。

さて、中央教育審議会（文部科学大臣の諮問に応じて、教育の振興・生涯学習の推進などに関する重要事項を調査審議し、答申（意見）を行う諮問機関）では次の学習指導要領改訂に向けた検討が進んでいて、５日（金）、文部科学省はこれまでの内容を暫定的に取りまとめ、今後の議論における方向性を示す「論点整理」の素案を報告しました。「素案」という名称が付いていますが、「次期学習指導要領の方向性はこれで大枠固まった」と捉えることもできるので、私たち学校教育に携わる者たちにとっては、その内容が気になるところです。

素案では、各学校の判断で特定の教科を標準授業時数から１割程度減らせるようにして、その分を個別の学習支援や教師の研究活動に充てることができるなど、学校の裁量を拡大させる制度が示されています。また、情報活用能力の向上を目指し、小学校の総合的な学習の時間や中学校の技術分野で情報技術や情報モラル教育を充実させたいとしています。一方、「ギフテッド」と呼ばれる特定分野に特異な才能をもつ子どもを対象に大学などの外部機関連携する特別な教育課程の編成を可能とすることなども盛り込まれています。今後、各教科や評価の在り方などについて具体的な議論を深め、教師にとって分かりやすく使いやすい学習指導要領を目指すということです。なお、文部科学省は2026年度中に答申を受け取り、2030年度以降、新しい学習指導要領の実施を目指すということです。

「教育課程の編成において学校の裁量が拡大される」ことは、とても魅力的である一方で、自校の生徒たちの状況を踏まえて具体の戦略をどのように描くのか、私たち教師の発想力・創造力・実行力等がより重要になってくるのだと思います。